

公共交通について
勉強するための資料
(応用編)

本日の話の全体像

1. 入門編のおさらい
2. 利用状況の把握について
3. ニーズの把握について
4. さいごに

本日の話の全体像

1. 入門編のおさらい
2. 利用状況の把握について
3. ニーズの把握について
4. さいごに

1. 入門編のおさらい

入門編の内容

基礎知識

- 地域公共交通の役割・現状
- 地方自治体が取り組む意義
- 地域公共交通に関する法律(道路運送法、地域交通法 等)
- 公共交通の運行形態(路線定期・不定期運行、区域運行 等)
- 地域公共交通会議と法定協議会の違い
- 地域公共交通に関する最近の動向

計画作成

- 地域公共交通計画の役割と作成意義
- **公共交通を取り巻く現状整理**
- 課題・方針・目標・指標の設定

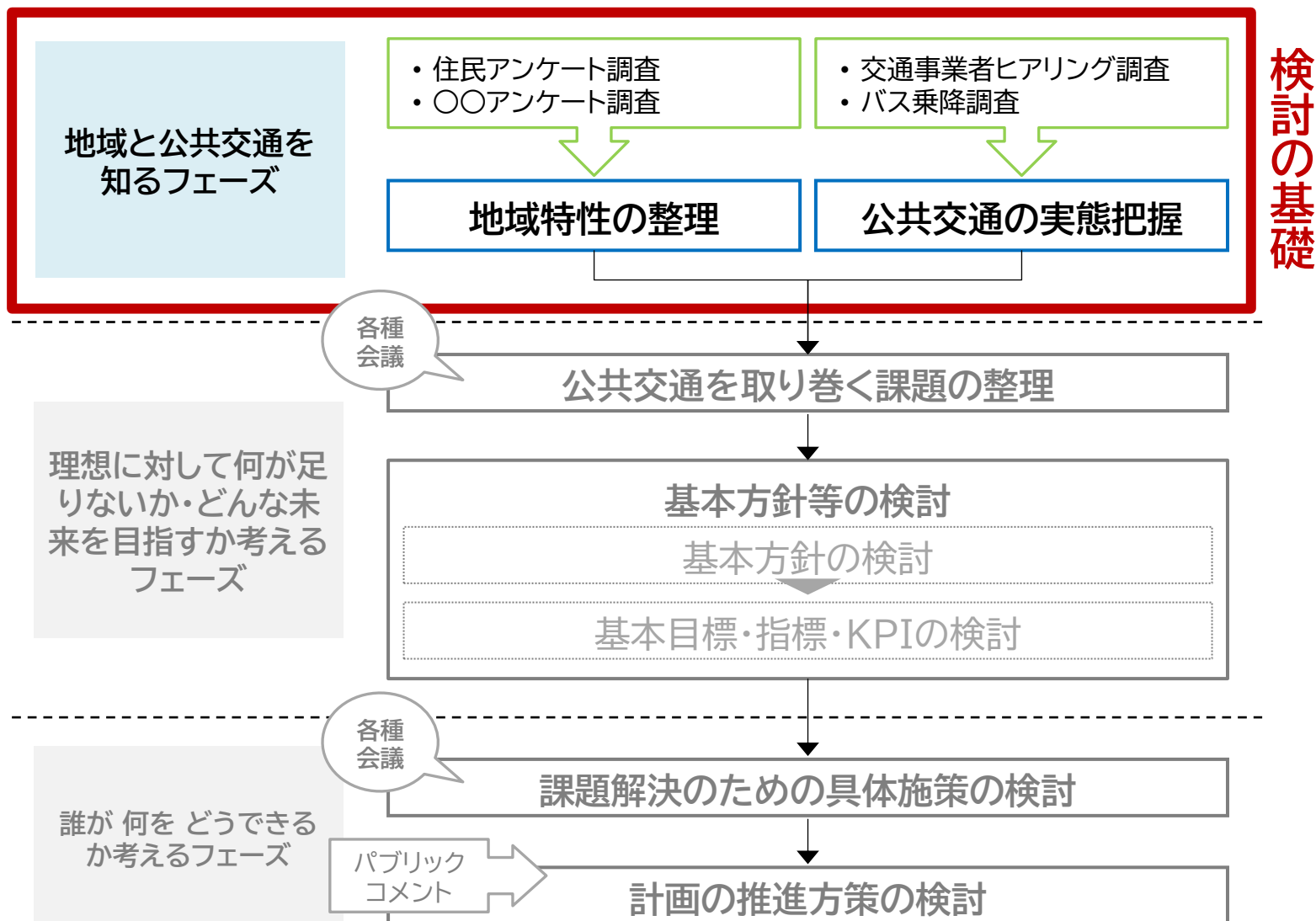
運用

- 国庫補助の仕組み

『もっと詳しく知りたい！』
という声が多かったので
今回は詳しく解説

1. 入門編のおさらい

地域公共交通計画の検討の進め方

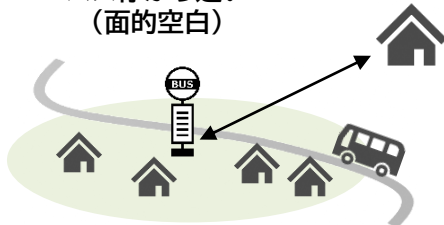


1. 入門編のおさらい

課題分析に向けた視点

対応できているか (地域現況の把握)

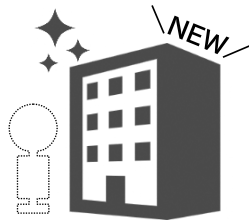
バス停から遠い
(面的空白)



そもそも目的地まで運行していない、
運行していても間に合わない
(時間的空白)



新設や統廃合施設
に合わせた運行が
されていない
(他分野連携不足)



使われているか (利用状況の把握)

1日を通して誰にも
使われない日がある

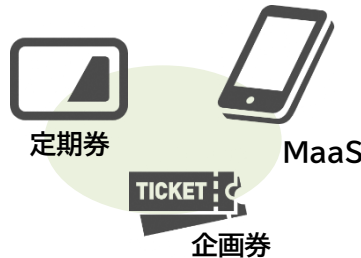


1ヶ月の1日あたり
の利用者数

乗車0.5人/日
乗車0.3人/日

※朝夕しか使われない等も

通常運行以外の
チケットの訴求具合



どう思われているか (ニーズの把握)

■使っている人



増便して！ 高い！
帰りの時間が合わない！
遅延情報が遅い！

■使っていない人



目的地まで行かない！
いつか使うから残して！
運行してるなんて知らなかった！
バス停が遠い！
使い方がわからない！

■事業者・施設等の関係者



運転手が足りない！
スクールバスを活用したい！
季節によって混雑！
駐車場が足りない！

◀ 今回のテーマ

各視点で「対応できていない」「利用者増加に繋がりそう」という部分が課題に！

1. 入門編のおさらい

地域と公共交通を「知る」ために

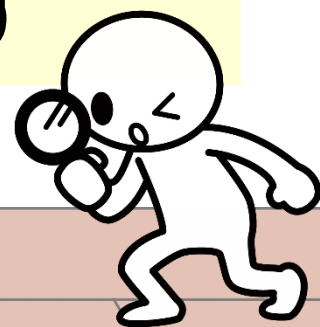
どんな方法やデータの見方をすればいいのか、
「手法」の話に入る前に…

それよりももっと大事なことがあります。

一度、バスに乗ってみましょう！
いろんな“気づき”があるはず



- どのバス停で乗って・降りている？
- どんな人がバスに乗ってくる？
- バス停ではどんな風に待っている？
- 車両の乗り降りで困っている人はいない？
- どのように運賃を支払っている？ など…



POINT

本日の話の全体像

1. 入門編のおさらい

2. 利用状況の把握について

3. ニーズの把握について

4. さいごに



2. 利用状況の把握について

利用状況を把握する意義

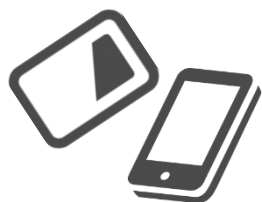
- 利用状況から、まちを走っているバスが、どんな方に、どの区間を、どのような支払い方法で利用されているのかなど、詳しく知ることができます。
- これによって、運行の目的に対して適切に利用されているのか、利用が多い・少ない時間帯や区間はどこかなどを的確に把握することができます。
- その状況を見ることによって各バス路線の「現状」を正確に把握することができ、必要に応じて見直しを行う際にも、データを元にして交通事業者と協議を行うことができ、具体的かつ本質的に議論を進めることができます。



2. 利用状況の把握について

利用情報の集め方

- 路線バスなどの利用状況を把握することは、現状を知る上で必要不可欠です。
- 基本的に日常的にデータを取得していればそれらを活用し、取得していない場合には、調査を実施することも考えられます。



①

交通系ICカード 交通系アプリ のログデータ

メリット

- 利用データが自動で収集されるので小さいマンパワーで対応可能
- バス停の利用状況に加え、私用者の券種やOD等の把握が可能
- 個別ユーザーに紐づけが可能なので繰り返しの利用状況も把握可能(システム次第では不可)

デメリット

- キャッシュレス機器の導入のための費用が発生
- キャッシュレス利用をしないとデータが入手できないため、現金利用が多い地域では必要なデータが収集できない可能性がある
- 個人情報を含んだ膨大なデータとなるため、別途データクリーニングが必要



②

運転手・調査員に よるカウントデータ

メリット

- 乗降時に運転手の目視によってカウントを行うため、決済方法に関わらず全ての利用者の情報を把握することが可能
- 調査員を配置することで、利用者のODや属性など細かな情報を把握することが可能

デメリット

- 利用が多い路線の場合は運転手のマンパワーが増大し、運行に支障が出る可能性がある
- 調査員を乗り込ませる場合は、路線数や調査期間次第では調査費が大きくなる可能性がある

2. 利用状況の把握について

収集する情報

- 収集するデータと主な活用法は以下のとおりです。

収集項目	活用法	①	②
運行日	運行時期等の判断 →特異日や平日・土日祝等による変化を判断	●	●
便別乗降地別の乗降データ	乗降地別の利用状況の評価 →利用のない区間・時間帯の可視化 等 (乗降地別・便別の利用者数や車内人員)	●	●
ODデータ	利用区間の把握 →特に広域路線など自治体間を跨ぐ利用実態の把握 等	●	※ ○
支払い方法	現金、キャッシュレス、回数券、身障者割、企画券等の利用実態把握 →キャッシュレス機器導入後の浸透度の把握 等	●	●
属性	高齢者や学生等の利用状況の把握 等	●	●

※調査員が乗り込み目視による記録を行った場合にのみ把握が可能

2. 利用状況の把握について

利用データの可視化(基本データ例)

バス停別利用者数 (1ヶ月分)	7:30発		8:30発		10:00発	
	乗 車	降 車	乗 車	降 車	乗 車	降 車
S団地	53	0	36	0	8	0
S下	—	—	—	—	4	0
S橋	—	—	—	—	2	0
S駅入口	—	—	—	—	3	0
S町	1	0	0	0	0	0
S中央駅前	67	20	0	0	1	0
S丸	2	2	0	0	0	0
N瀬	4	0	1	0	0	0
N上	2	0	16	0	0	0
N団地	25	0	25	0	0	0
N総合病院前	0	20	0	0	0	1
N掛	0	0	0	0	0	3
Nスーパー前	3	0	0	77	0	12
N池	2	2	1	2	0	2
N高校前	0	115	0	0	0	0
K田	0	0	0	0	0	0
K松	13	0	10	0	0	0
K団地	1	1	0	0	0	0
K根	2	3	1	0	0	0
K根上町	4	2	0	0	0	0
K沢入口	0	0	0	0	0	0
K駅前	2	11	0	10	0	0
K樋	1	3	0	0	0	0
K交通センター	0	3	0	1	0	0
合計	182	182	90	90	18	18

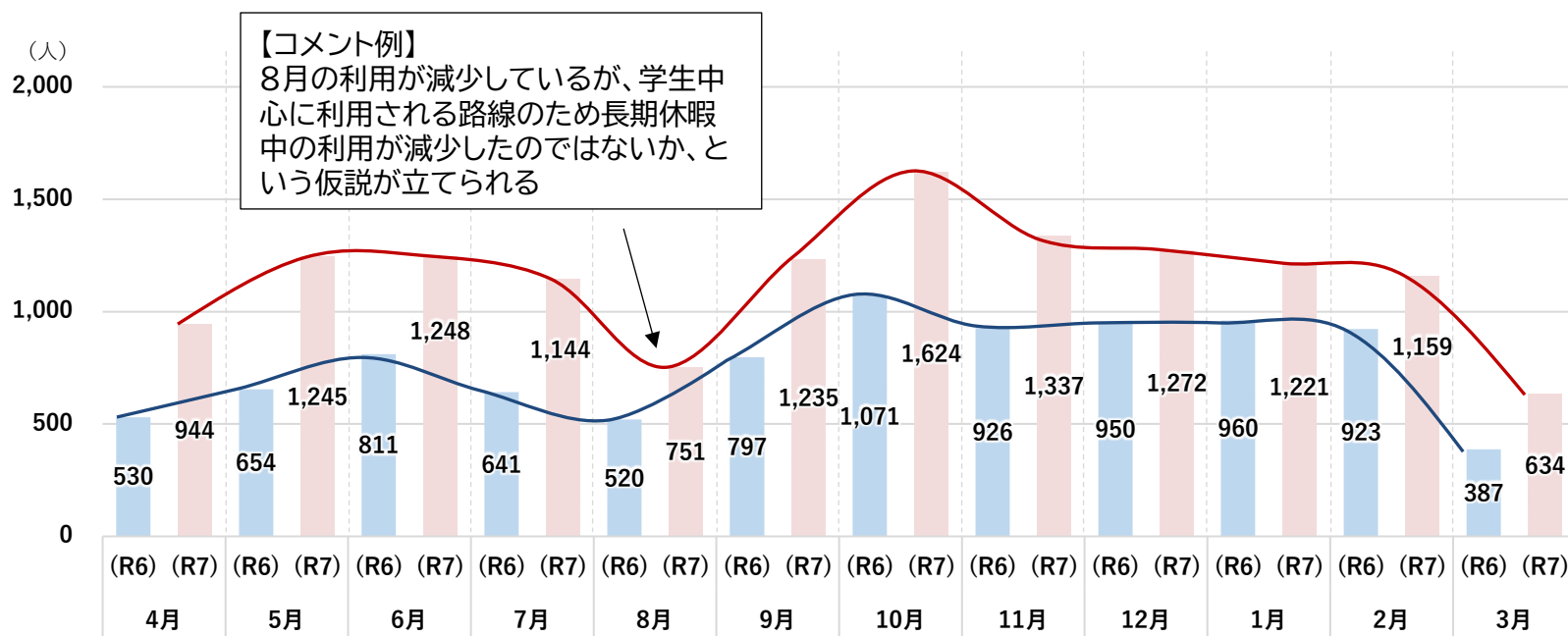
- 基本的に交通事業者の日報等から得られる利用実績データは左のような内容です。
- このデータを用いて利用実態を視覚的に分析することが重要です。

2. 利用状況の把握について

利用データの可視化(月別利用者数)

■みるべきPOINT

- 閑散期・繁忙期を把握
→利用をさらに伸ばす時期、利用がない時期の集客法等の検討
- 見直しを行った場合は昨年度との実績と横並びにすることで評価
→利用者への浸透期間等も踏まえつつ効果がない場合は新たな策を検討



2. 利用状況の把握について

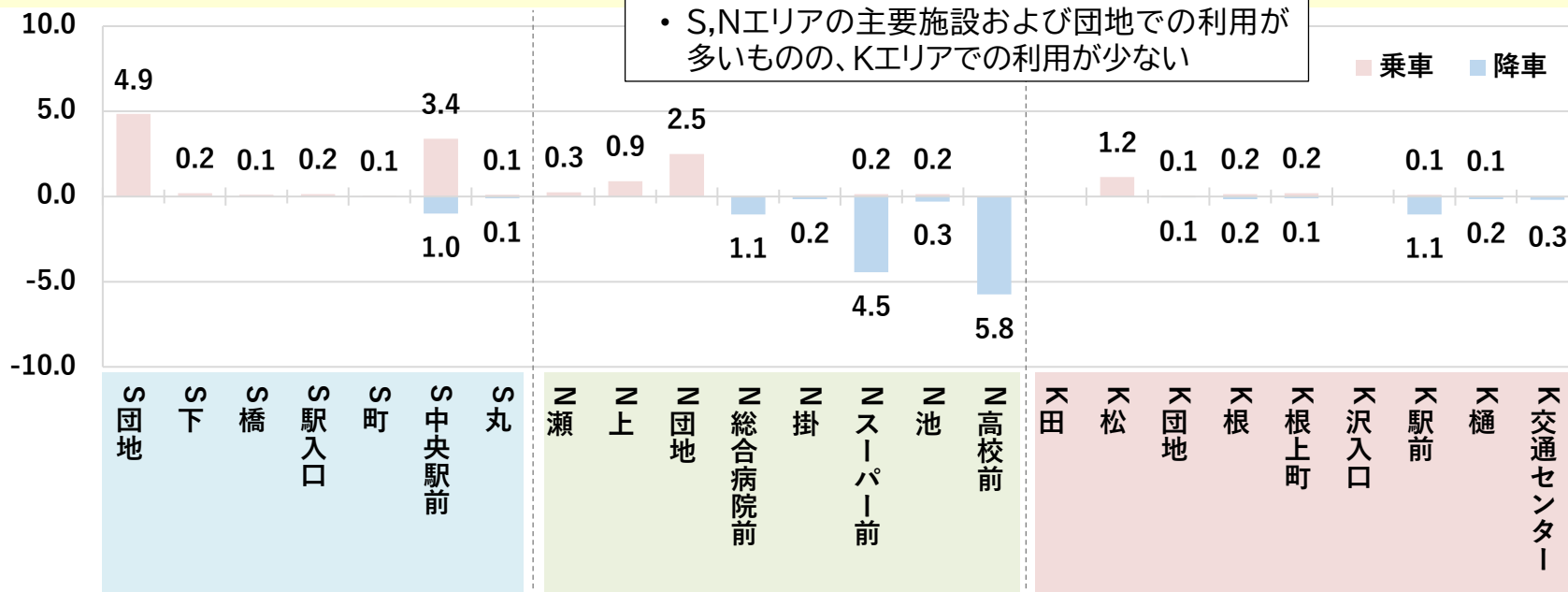
利用データの可視化(バス停別利用者数)

■みるべきPOINT

- 乗降が多いバス停を把握
→利用が1.0人/日を下回るバス停(誰も利用しない日があるバス停)について対応の検討
- 路線端部(特に地域を跨ぐ運行)の必要性を把握
→主要区間外に利用が無い場合の運行の必要性の検討
- バス停の立地する市町村や、同一市町村内であれば地区で分けることで、市町村別・地区別の利用状況などを把握

【コメント例】

- S,Nエリアの主要施設および団地での利用が多いものの、Kエリアでの利用が少ない

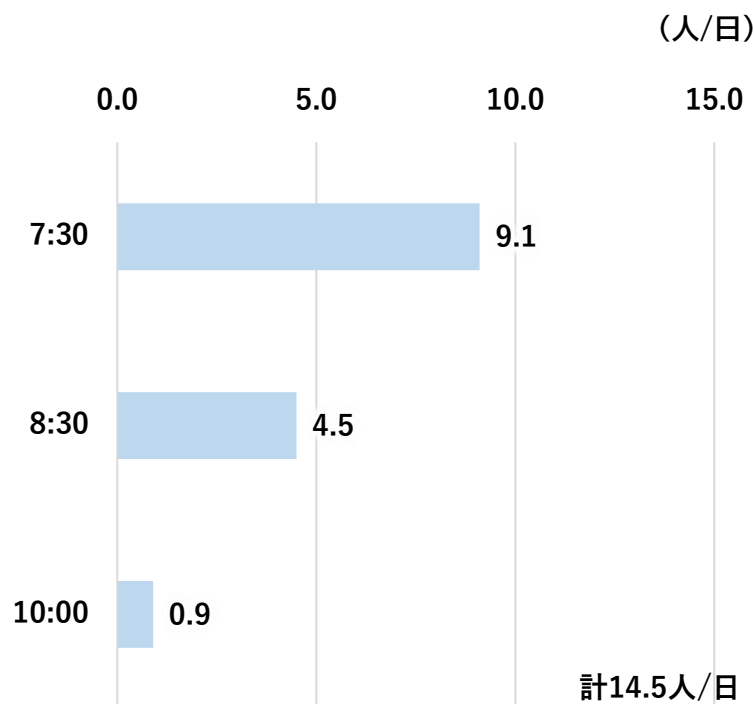


2. 利用状況の把握について

利用データの可視化(便別利用者数)

■みるべきPOINT

- 利用が多い・少ない時間帯(移動ニーズとの整合)を把握
→利用が少ない時間帯について対応(見直し、廃止、予約制等)の検討



【コメント例】

- 朝の時間帯に利用が集中しているものの、昼に近づくにつれて利用が減少している

2. 利用状況の把握について

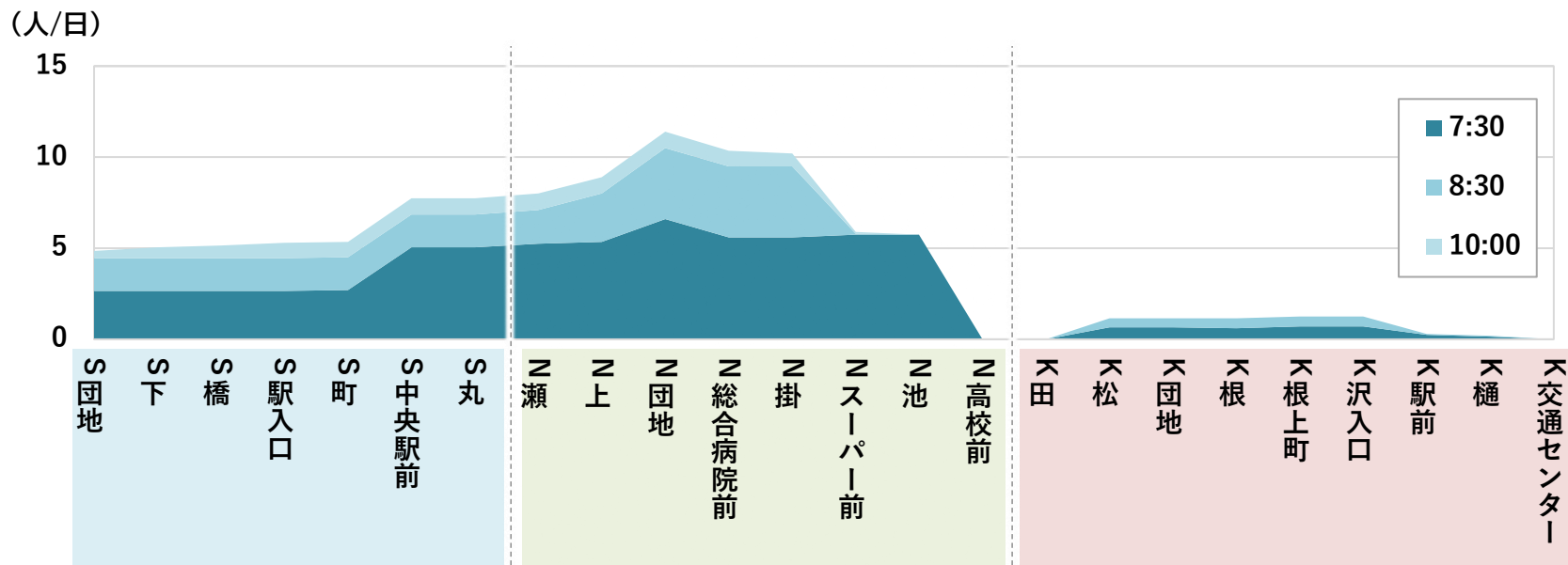
利用データの可視化(便別車内人員)

■みるべきPOINT

- 車内の混雑状況を把握
→車両規模に合わない場合は車両の切替等を検討
- 便ごとの利用傾向を把握
→利用目的に合わせた適切な運行時間の調整
- 利用者の利用区間を把握
→必要に応じた系統分離の検討

【コメント例】

- 車内人員が10人以下で推移
- 1便目は高校通学、2便目は買物利用が主な目的となっている
- N高校前とK田の間で利用者が入れ替わっているため、系統分離して効率化するなどの仮説も考えられる



2. 利用状況の把握について

利用データの可視化(OD利用状況)

■みるべきPOINT

- バス停利用者数だけでは把握できない移動区間を把握
→特に自治体を跨ぐ利用状況から、広域移動の必要性を検討
- 病院→買物などの複数目的の移動実態を把握
→特別割引等の必要性を検討

	S団地	S下	S橋	S駅入口	S町	S中央駅前	S丸	N瀬	N上	N団地	N総合病院前	N掛	Nスーパー前	N池	N高校前	K田	K松	K団地	K根	K根上町	K沢入口	K駅前	K樋	K交通センター
S団地		0	0	0	0	20	0	0	0	0	15	0	20	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S下			0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S橋				0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S駅入口					0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S町						0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S中央駅前							0	0	0	0	0	0	20	6	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0
S丸								0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N瀬									0	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N上										0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N団地											0	0	27	0	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N総合病院前												0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N掛													0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Nスーパー前														0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N池															3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
N高校前																0	0	0	0	0	0	0	0	0
K田																	0	0	0	0	0	0	0	0
K松																		1	2	0	0	16	2	2
K団地																			1	0	0	0	0	0
K根																				2	0	1	0	0
K根上町																					0	4	0	0
K沢入口																						0	0	0
K駅前																							1	1
K樋																								1
K交通センター																								

【コメント例】

- 主にS→Nエリアでの移動に用いられている
- N→Kエリアを跨ぐ利用はない
- 通院や買物後に他の目的地に移動している実態はない

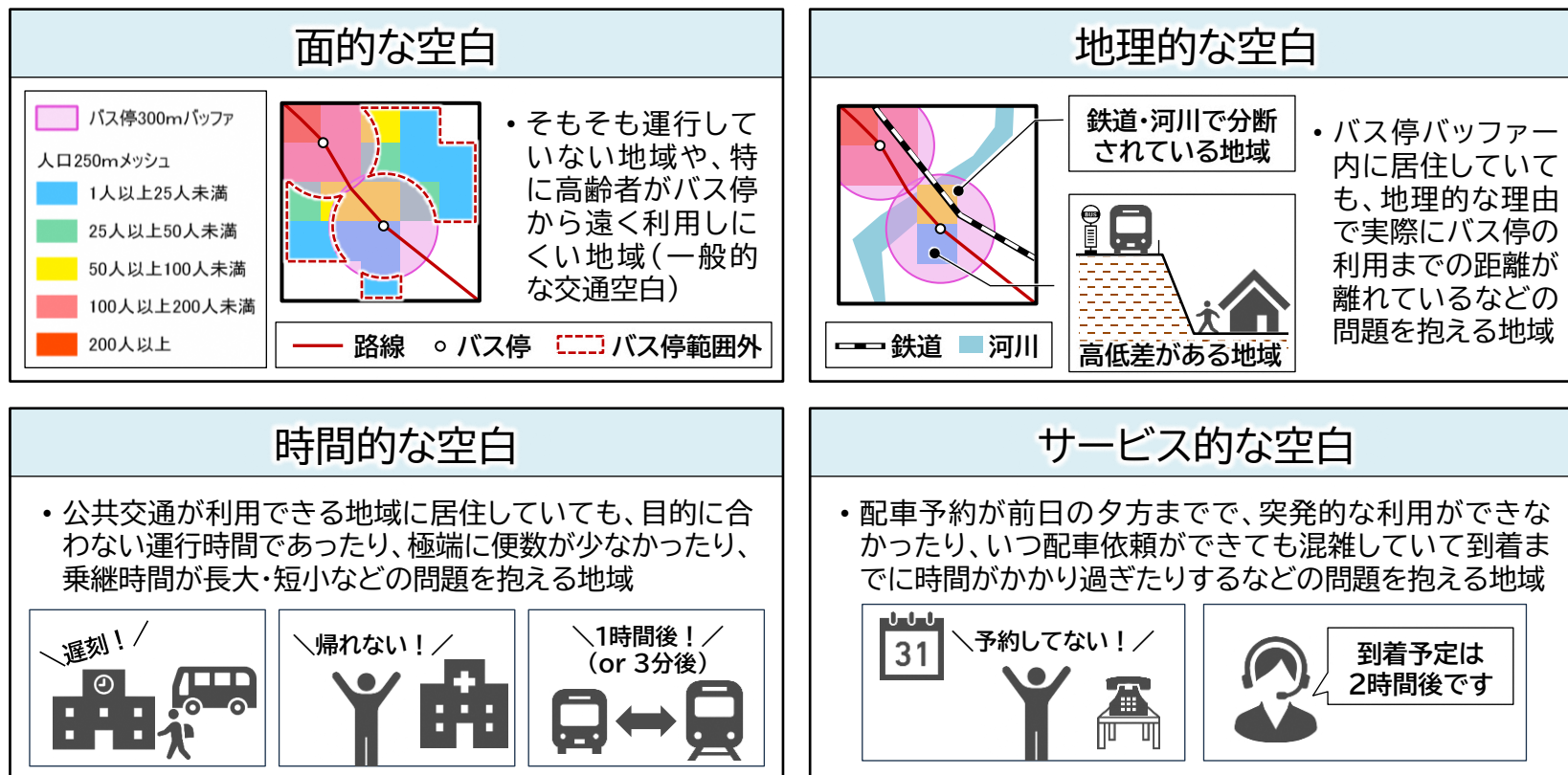
(人/月)

2. 利用状況の把握について

参考：交通空白の一例

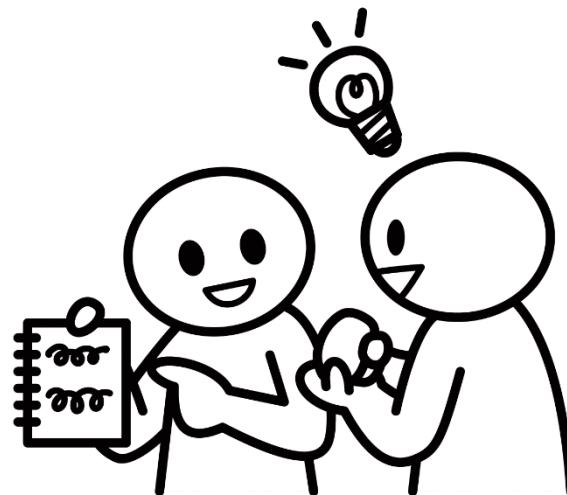
- 国が示す『「交通空白」解消に向けた取組方針2025』においては交通空白地は『誰もがアクセスできる移動の足がない又は利用しづらいなど地域交通に係るお困りごとを抱える地域』とされています。

▼交通空白の一例



本日の話の全体像

1. 入門編のおさらい
2. 利用状況の把握について
- 3. ニーズの把握について**
4. さいごに



3. ニーズの把握について

ニーズの集め方

- ターゲットの移動状況や公共交通に対する認識等を把握する方法として、主に以下のような調査が考えられます。

 アンケート調査	 利用者 聞き取り調査	 意見交換・ ワークショップ
対象 主に住民全体、学生、学校、高齢者、観光客、民生委員、施設等	対象 主に公共交通利用者、交通拠点（駅・病院等）利用者等	対象 主に地域住民、学生、保護者、施設、民生委員、保健師、PTA等
メリット - 多くの意見を集めることが可能かつ、対象を絞り込めば特化した情報を収集可能 - クロス集計により、グループごとの公共交通に対する要望や事業への協力可能性等を把握可能 - WEBを用いて観光客等の来訪経験者への調査も可能	メリット - 実際に利用している人の意見を収集することが可能 - 観光客など、郵送等での調査が難しい対象への調査も可能 - 直接声をかけるため、紙・WEBでの調査よりも回収できる確率が高い	メリット - 利用ができず、本当に困っている方の意見を把握できる可能性が高い - 施設関係者を集める場合、利用者の行動実態が把握できるとともに地域連携のきっかけとなりやすい - 将来的に地域検討委員会などを構成する場合の重要なキーパーソンを得られる可能性が高い
デメリット 幅広く聞くことで「要望のみで実際には使わない人」の意見が含まれる可能性がある	デメリット - 利用していない方の意見を把握することができない - 日によって利用者が変わる場合、複数日で調査を行う必要があり、マンパワーが増大	デメリット 参加者の参集が難しく、町内会長や民生委員、社協などの協力によって立ち上げる場合もある

3. ニーズの把握について

ニーズを把握する意義(仮説の検証)

- 各調査で「主に何を聞くべきか」は次ページ以降に示していますが、公共交通に特化した大規模調査を毎年実施することは難しいです。
- ある程度の「取組の方向性(自治体としての考え)」や「顕在化する住民からの要望」が既に見えている場合は、これを「仮説的な課題」として、調査結果により「**本当に適しているかの検証**」を行うことが望ましいです。

例えば…

【既に行政が把握済の実態】

- バス利用者が少ない
- 交通事業者も不足
- 運行経費も大きい
- 毎日使う学生利用もない
- デマンドを求める声もある



デマンドへの移行可能性を検討



【調査項目の例】

- 普段何で移動しているか ▶ 移動手段を有しているか確認
- 毎日バスを利用したいか ▶ 定時定路線運行の必要性を確認
- タクシーを利用しているか ▶ 抵抗感や現在のサービス評価を確認
- どんな目的で移動するか ▶ 現在の運行が目的に合っているか確認
- 発生している経費への印象 ▶ 経費を見ても地域が必要とするか確認
- サービス維持に協力できるか ▶ 協議検討や費用負担の可能性を確認
- 予約制のサービスへの印象 ▶ 電話・ネット予約の抵抗感を確認
- スマホの使用状況 ▶ 予約アプリ等の対応可能性の確認



など

可能な限り高い解像度で、把握したい情報を得る調査を行うことが重要

3. ニーズの把握について

実施例①：住民アンケート(調査項目)

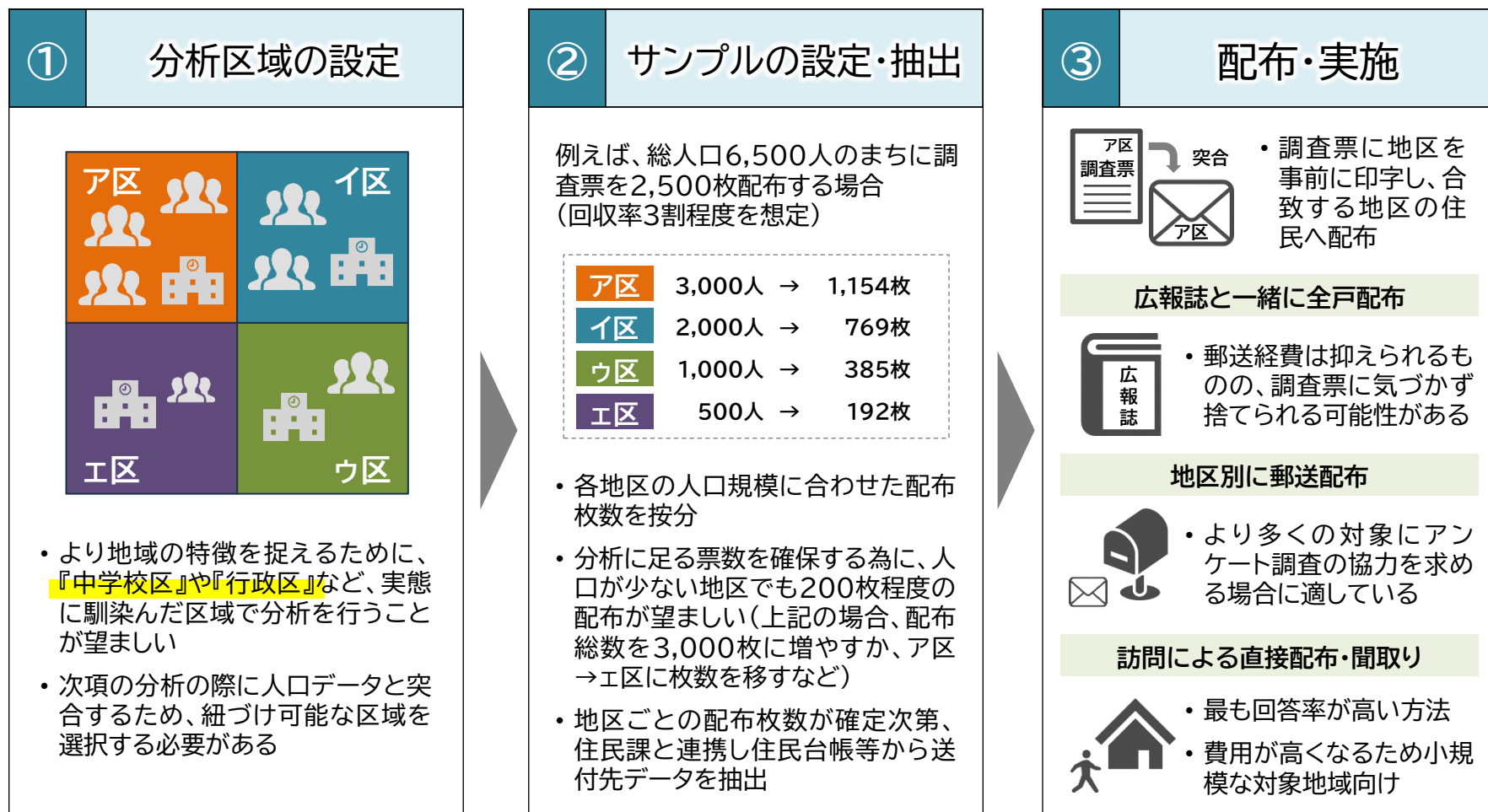
調査項目	把握内容(概要)	設問設定の意図
日常生活の移動実態	買物、通院などの日常生活での移動実態（目的地、頻度、移動手段など）	現状の移動実態を把握
公共交通の利用	- 公共交通の利用の有無（過去利用含む） - 公共交通の利用実態（利用した公共交通、目的、乗り継ぎ実態、頻度など） - 公共交通による生活の質の変化 - 公共交通に対する改善要望 - 今後の公共交通の利用可能性	- 公共交通の現状の利用実態を把握 - 過去に使っていたが使わなくなった方の状況把握 - 公共交通の見直しの方向性の検討材料として活用 - 具体施策の検討材料として活用
公共交通の評価	- 公共交通に対する評価 - 取組施策の認知状況 など	各種取組の満足度・重要度を把握し、課題対応の優先度設定などに活用
基本属性	- 性別・年代・職業 - 居住地（地区） など	- 属性による回答傾向の差異の分析などに活用 - クロス集計を実施する際の基礎資料として活用

加えて「日常の移動に関するアンケート」など、回答者との関係性が見えるタイトルの工夫も重要

3. ニーズの把握について

実施例①：住民アンケート(実施方法)

- 調査実施までの流れは主に以下のとおりです。



※厳密な算出方法は次ページ参照

3. ニーズの把握について

参考: サンプル数設定の公式

$$n = \frac{N}{(\varepsilon / K(\alpha))^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

『サンプル数設定の公式』

- n : サンプル数
 N : 母集団の大きさ
 ε : 標本特性値につけるプラスマイナスの幅(%)
 P : 母比率(%)
 $100 - \alpha$: 信頼度(%)
 $K(\alpha)$: 正規分布の性質から下表で与えられる値

表 区間推定の公式で用いる $K(\alpha)$ の値

$(100 - \alpha)$; 信頼度(%)	68.3	90.0	95.0	95.4	99.0	99.7
α ; 推定を誤る確率(%)	31.7	10.0	5.0	4.6	1.0	0.3
$K(\alpha)$	1.000	1.645	1.960	2.000	2.576	3.000

参考文献 : 『アンケート調査の方法』 朝倉書店

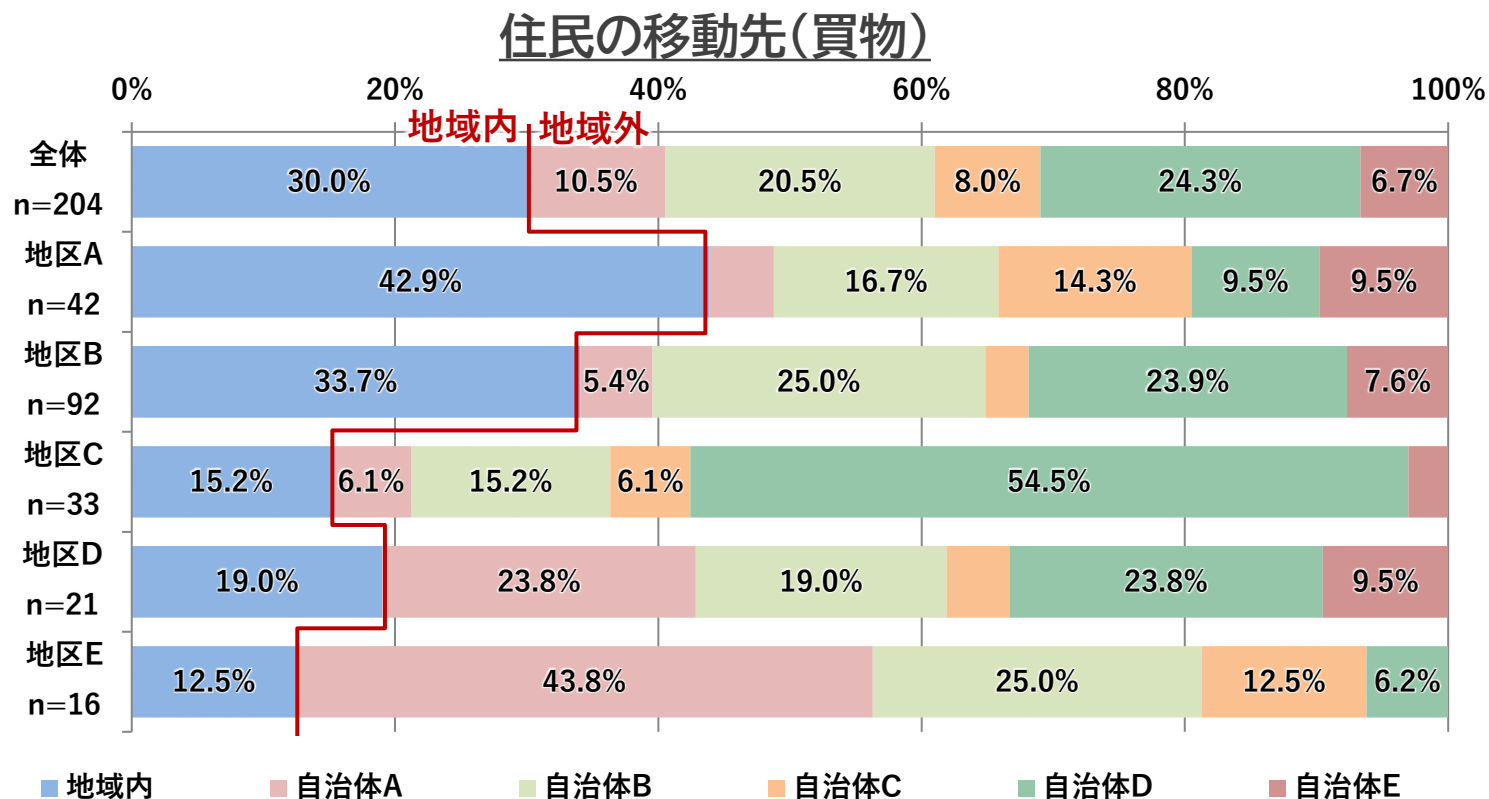
3. ニーズの把握について

実施例①：住民アンケート(結果例)

■みるべきPOINT

地区ごとの住民の移動先を把握し、整備すべき移動手段を判断

問：あなたは普段どこへ買い物に行きますか？



※5%以下非表示

3. ニーズの把握について

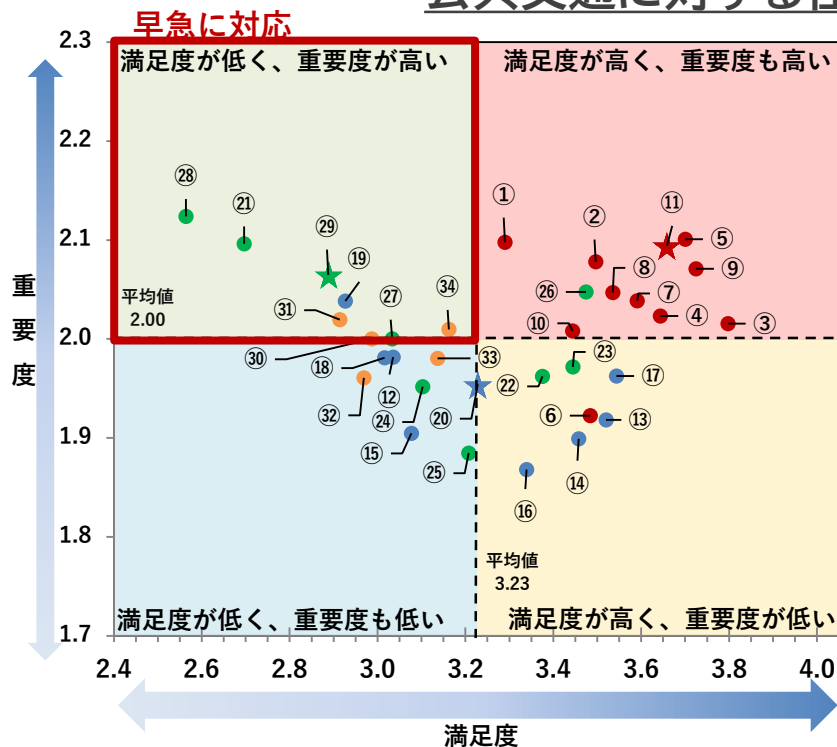
実施例①: 住民アンケート(結果例)

■みるべきPOINT

住民の公共交通に対する評価を視覚的に整理(優先度付)

問: 次の項目の「満足度」と「重要度」を教えてください

公共交通に対する住民の「満足度」と「重要度」



No	項目
①	利用できる時間帯(8~17時)
②	利用できる区間(乗降場所のみ)
③	自宅付近の乗降場所の設置箇所
④	目的地付近の乗降場所の設置箇所
⑤	運賃(村民は300円)
⑥	支払い方法(現金)
⑦	予約方法(電話・WEBアプリ)
⑧	予約の期間(利用の1週間~30分前)
⑨	車両の運行時間の正確さ
⑩	バスへの乗り継ぎやすさ
⑪	総合的な評価
⑫	利用できる時間帯
⑬	自宅付近の乗降場所の設置箇所
⑭	目的地付近の乗降場所の設置箇所
⑮	運賃
⑯	支払い方法
⑰	車両の運行時間の正確さ
⑱	バス同士の乗り継ぎ時間
⑲	バス⇄鉄道の乗り継ぎ時間
⑳	総合的な評価

No	項目
②①	利用できる時間帯
②②	自宅付近の乗降場所の設置箇所
②③	目的地付近の乗降場所の設置箇所
②④	運賃
②⑤	支払い方法
②⑥	車両の運行時間の正確さ
②⑦	バス同士の乗り継ぎ時間
②⑧	バス⇄鉄道の乗り継ぎ時間
②⑨	総合的な評価
③⑩	公共交通の運行情報の提供媒体
③⑪	運行情報の内容 (ダイヤ、乗降場所など)
③⑫	停留所の待合環境
③⑬	停留所の記載内容のわかりやすさ
③⑭	車両の乗り降りのしやすさ

■満足度、重要度の点数算出方法

(満足度各件数×点数(満足=5点、やや満足=4点、普通=3点、やや不満=2点、不満=1点))÷各項目回答者数(わからない・無回答は除外)

(重要度各件数×点数(とても重要=3点、重要=2点、重要ではない=1点))÷各項目回答者数(無回答は除外)

3. ニーズの把握について

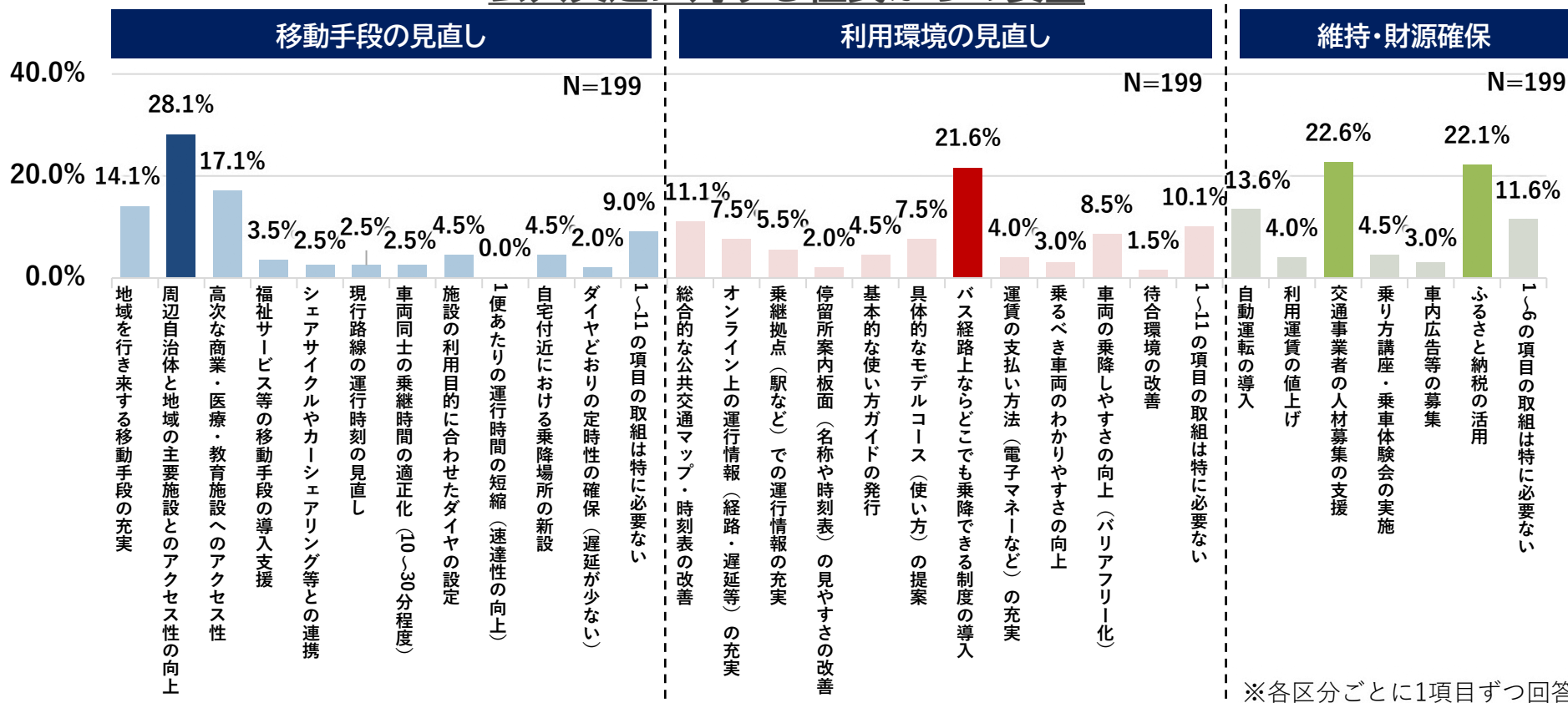
実施例①：住民アンケート(結果例)

■みるべきPOINT

公共交通で求められている事業を選定

問：次の各項目の中で公共交通に求めるものを全て選択してください

公共交通に対する住民からの要望



※各区分ごとに1項目ずつ回答

3. ニーズの把握について

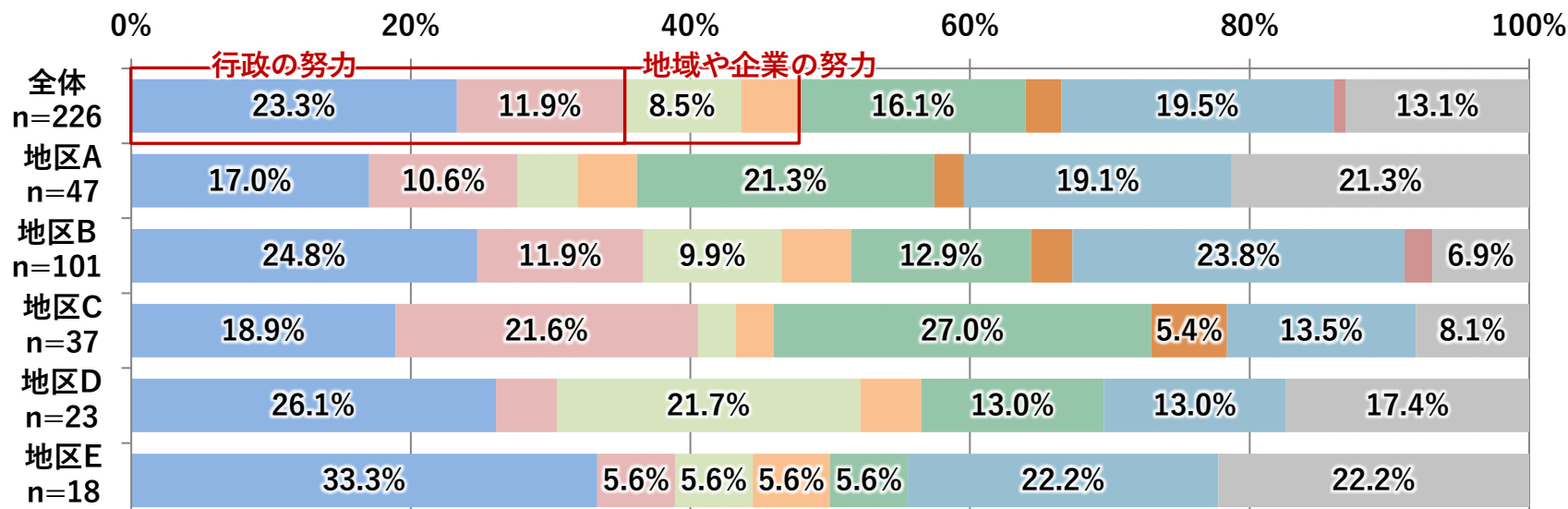
実施例①：住民アンケート(結果例)

■みるべきPOINT

将来的な取組の地域との連携可能性を把握

問: 将来的な取組に対するあり方について最も近いものを教えてください

公共交通の取組に対するあり方について



- 行政が新たに公共交通に対する財政負担を行い、新規移動サービスを運行させたほうが良い
- 行政が新たに公共交通に対する財政負担を行い、既存サービスのレベルの維持・向上を図ったほうが良い
- 地域や企業等が連携して財政負担を行い、既存サービスのレベルの維持・向上を図ったほうが良い
- 地域が主体となって、既存サービスのレベルの維持・向上を図ったほうが良い
- 現状のサービスのレベルを維持するのが良い
- 公共交通は必要ない

※5%以下非表示

3. ニーズの把握について

実施例②：通学者アンケート(調査項目)

設問	調査対象	
	学校	生徒 (保護者含)
学校の概要（生徒数、出身学校）	●	
登下校時間帯（部活あり・なし）	●	●
通学手段（登校時・下校時、夏季・冬季、天候別など）	●	●
放課後・休日の移動先		●
利用バス停・駅		●
通学時の規則	●	
スクールバスの運行の有無（事業主体・対象等も含）	●	
通学に係る費用（1ヶ月あたり）		●
公共交通の利用意向	●	●
公共交通利用に対し配慮していること	●	
公共交通に対する印象・要望	●	●
進路選択時の公共交通の影響度		●
免許取得状況・予定（普通自動車・原付）		●
保護者による送迎状況（送迎者の続柄、送迎理由、頻度、負担状況）		●
日常的な情報の入手方法		●
日常的な支払い方法（キャッシュレス対応状況）		●

自治体居住者に配布する場合は地域外からの通学者の意見が聞けないことに注意

3. ニーズの把握について

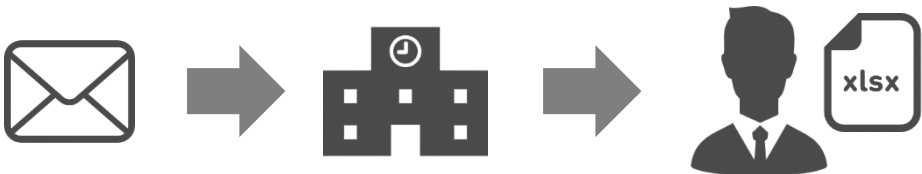
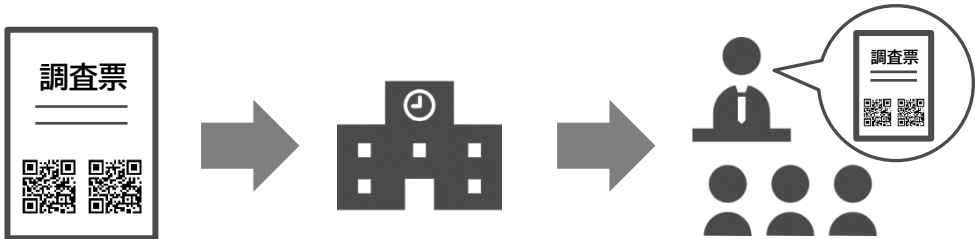
実施例②：通学者アンケート(結果：学校)

設問(学校回答)	過去に多かった回答(要約)
利用促進に向けた取り組み	・ 利用呼びかけ（定期購入促進、相談窓口の設置）
利用促進したい理由	・ 安全な通学環境を確保するため ・ 保護者送迎による混雑を解消するため ・ 卒業後を見据えた社会勉強のため（養護学校からの回答含む）
利用促進できない理由	・ 個人や家庭の考え・事情を考慮・尊重しているから ・ 公共交通が不便・限られているから
配慮している事項	・ 利用時のマナー教育・巡回指導 ・ 運行に合わせた時間割・部活の設定
話題となっている事項	・ 通学路線の廃止・存続について ・ ダイヤ・本数・経路の不便さについて
問題を感じている事項	・ ダイヤ・本数の不便さについて ・ 利用マナーについて
意見・要望	・ ダイヤ・本数・経路の不便さについて ・ 運行遅延・運休時の対応等について（悪天候・災害等含む） ・ 通学路線の廃止・存続について

アンケートをもとに適切にすり合わせを行うことが重要

3. ニーズの把握について

実施例②：通学者アンケート(実施方法)

パターン①	メールで担当教諭に依頼・回収 	・調査に係る負担が最も少ない ・教諭による代表回答のため、総合的な意見が得られるものの、踏み込んだ情報は得にくい
パターン②	対象生徒の自宅に郵送配布・オンライン回収 	・直接生徒の自宅に郵送することで、保護者の目にも触れやすく、回答が得られやすい ・学校からも別途呼びかけの協力があるとより回答率が高まる ・自治体の外から通う生徒に調査票を配布するのが難しい
パターン③	対象学校に郵送配布・オンライン回収 	・学校を経由することで、自治体の外から通う生徒に調査票を配布することが可能 ・保護者の目が届きにくいいため、一定の生徒から回答が得られるものの、保護者の回答率は下がる

※保護者と生徒の回答先を分けることで回答のしやすさを向上

3. ニーズの把握について

実施例②:通学者アンケート(結果:生徒)

■みるべきPOINT

通学時間に公共交通が整備されているかの確認

問:あなたは何時に学校へ出発しますか？

■地域内の通学先

出発時間 (n=10)	時間帯	帰宅時間 (n=10)
0.0%	06:00～07:00	0.0%
50.0%	07:00～08:00	0.0%
50.0%	08:00～09:00	0.0%
0.0%	09:00～10:00	0.0%
0.0%	10:00～11:00	0.0%
0.0%	11:00～12:00	0.0%
0.0%	12:00～13:00	0.0%
0.0%	13:00～14:00	0.0%
0.0%	14:00～15:00	0.0%
0.0%	15:00～16:00	0.0%
0.0%	16:00～17:00	0.0%
0.0%	17:00～18:00	30.0%
0.0%	18:00～19:00	40.0%
0.0%	19:00～20:00	30.0%
0.0%	20:00～21:00	0.0%
0.0%	21:00～22:00	0.0%
0.0%	22:00以降	0.0%

■通学先自治体A

出発時間 (n=4)	時間帯	帰宅時間 (n=4)
0.0%	06:00～07:00	0.0%
75.0%	07:00～08:00	0.0%
25.0%	08:00～09:00	0.0%
0.0%	09:00～10:00	0.0%
0.0%	10:00～11:00	0.0%
0.0%	11:00～12:00	0.0%
0.0%	12:00～13:00	0.0%
0.0%	13:00～14:00	0.0%
0.0%	14:00～15:00	0.0%
0.0%	15:00～16:00	0.0%
0.0%	16:00～17:00	50.0%
0.0%	17:00～18:00	25.0%
0.0%	18:00～19:00	0.0%
0.0%	19:00～20:00	25.0%
0.0%	20:00～21:00	0.0%
0.0%	21:00～22:00	0.0%
0.0%	22:00以降	0.0%

■通学先自治体B

出発時間 (n=60)	時間帯	帰宅時間 (n=60)
51.7%	06:00～07:00	0.0%
45.0%	07:00～08:00	0.0%
3.3%	08:00～09:00	0.0%
0.0%	09:00～10:00	0.0%
0.0%	10:00～11:00	0.0%
0.0%	11:00～12:00	0.0%
0.0%	12:00～13:00	0.0%
0.0%	13:00～14:00	1.7%
0.0%	14:00～15:00	0.0%
0.0%	15:00～16:00	1.7%
0.0%	16:00～17:00	1.7%
0.0%	17:00～18:00	11.7%
0.0%	18:00～19:00	16.7%
0.0%	19:00～20:00	26.7%
0.0%	20:00～21:00	40.0%
0.0%	21:00～22:00	0.0%
0.0%	22:00以降	0.0%

3. ニーズの把握について

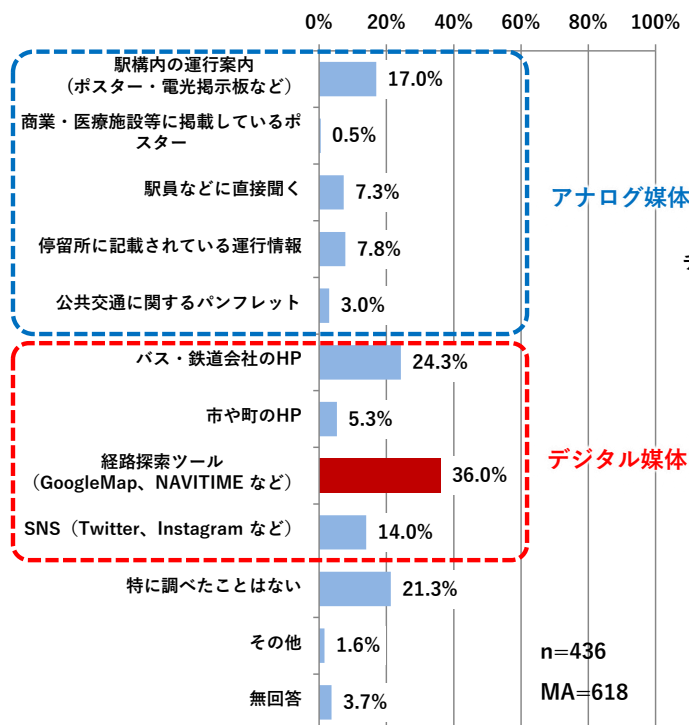
実施例②：通学者アンケート(結果：生徒)

■みるべきPOINT

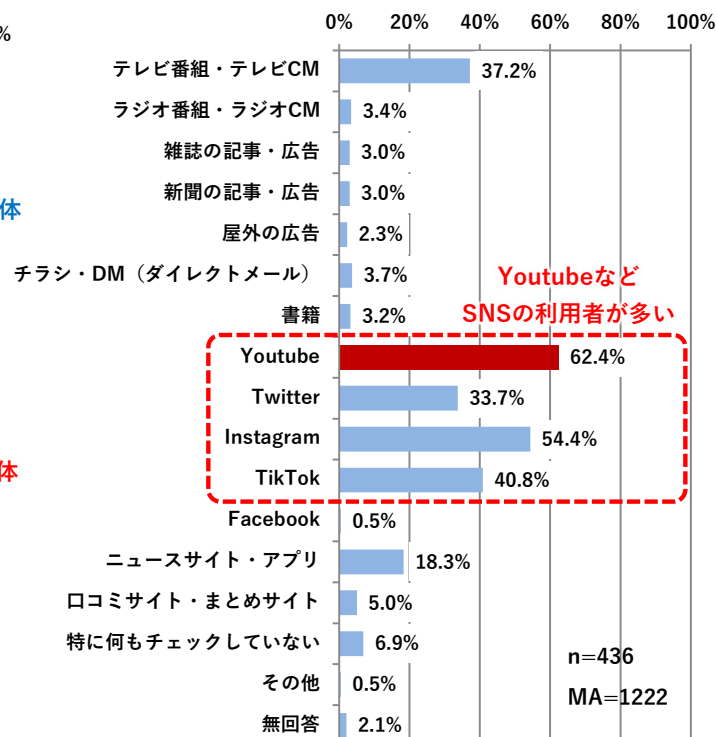
どのような周知方法が対象にリーチしやすいかを確認

問：あなたは普段どのような方法で情報を得ていますか？

公共交通の運行情報の取得手段



運行情報に限らず
普段から情報を得るツール



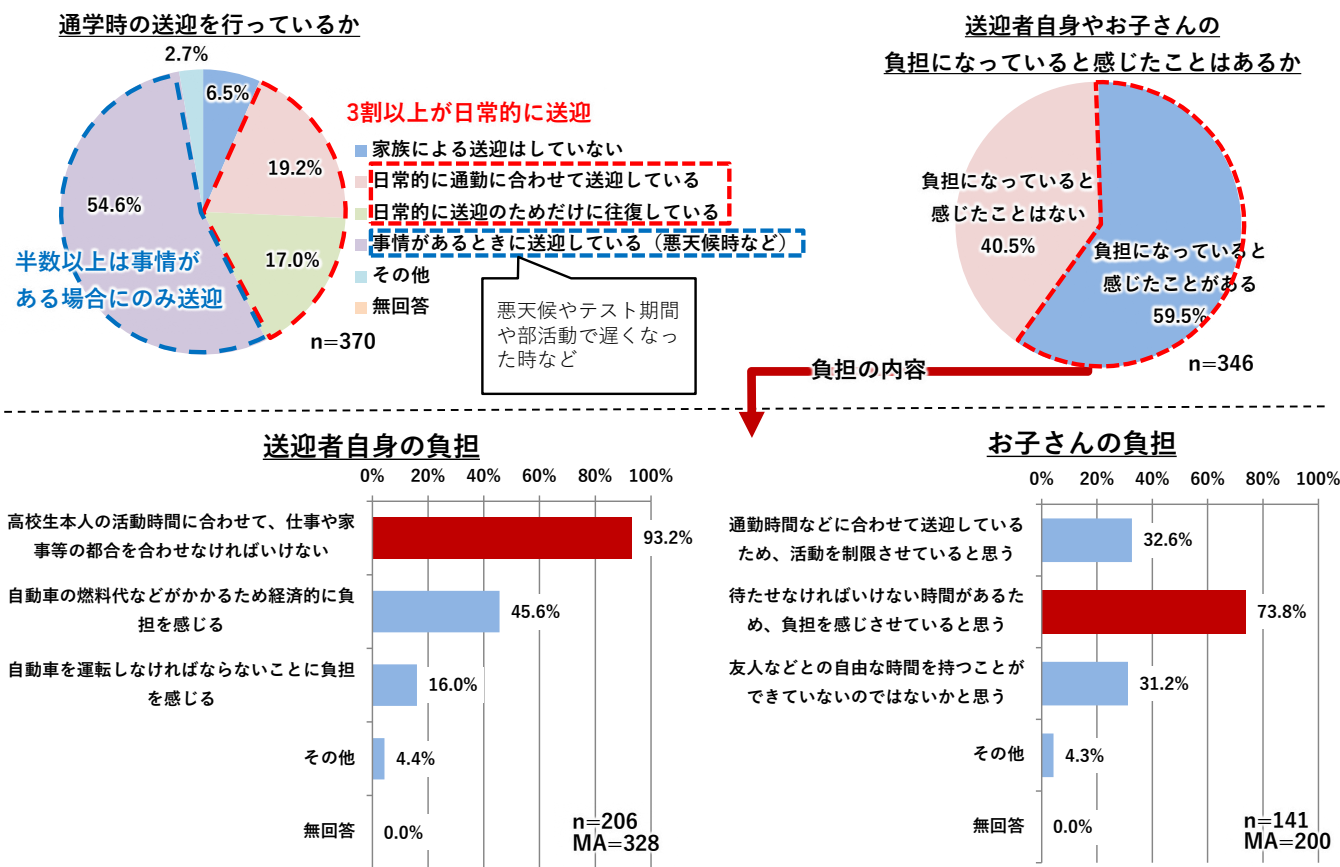
3. ニーズの把握について

実施例②：通学者アンケート(結果:保護者)

■みるべきPOINT

保護者の通学負担軽減の必要性の検討材料として活用

問:送迎の状況と負担に感じていることを教えてください



3. ニーズの把握について

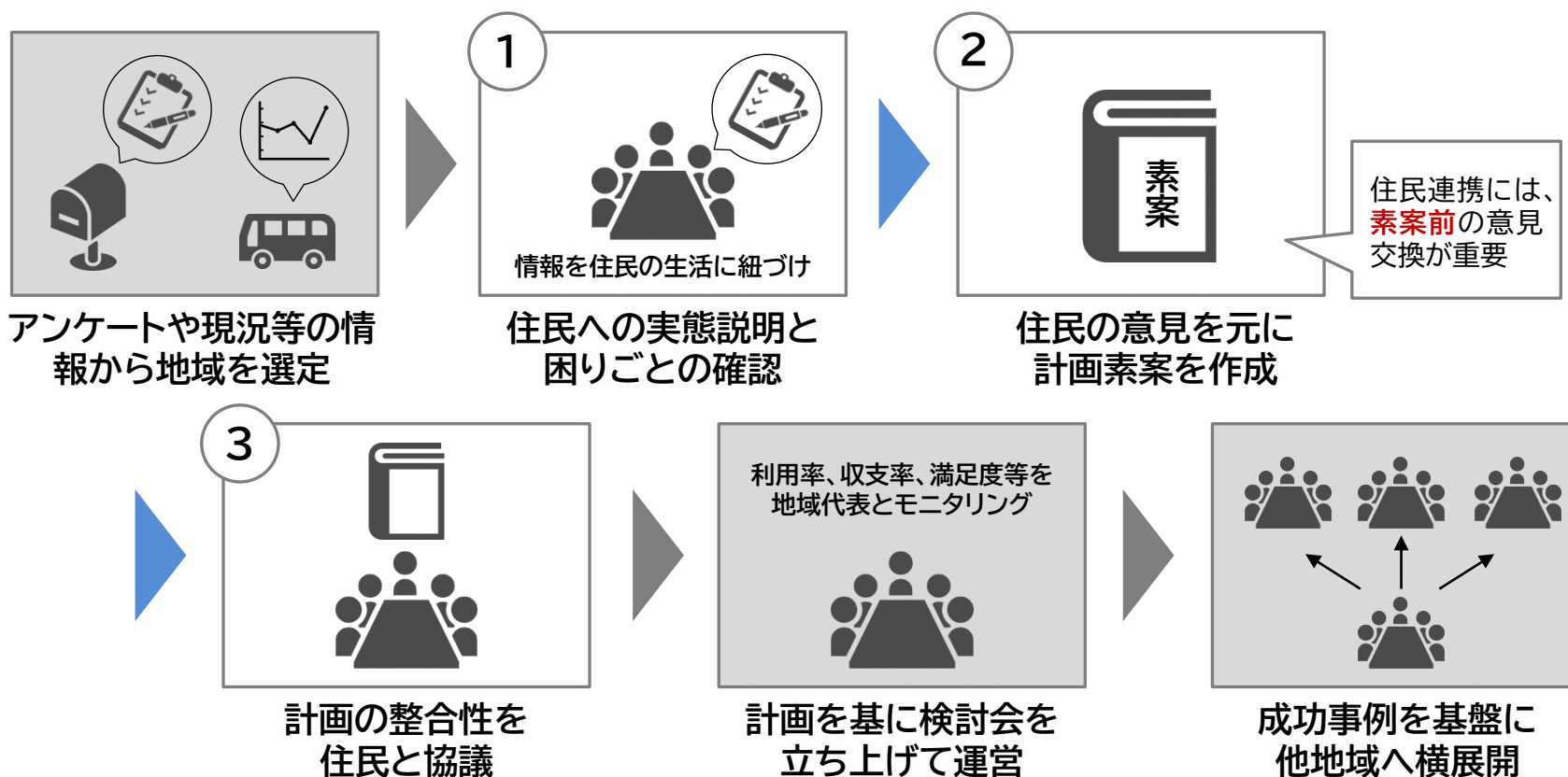
実施例③：その他調査(実施方法)

対象	実施目的	主な実施方法
観光客	観光客の移動実態や公共交通に対する要望などを把握	- 観光施設での聞き取り調査 - 観光施設での留置アンケート調査（WEB含む） - WEBアンケート調査
民生委員	主に高齢者の移動実態やコミュニティの場の有無、公共交通に対する要望などを行政区単位で把握	アンケート調査（民生委員の集会時に現地で調査票を配布し、その場で回収もしくは返信用封筒による郵送回収、役場担当課での回収）
施設	施設利用者の移動実態や施設独自の移動サービスの有無などを把握	アンケート調査（郵送配布・郵送回収）
利用者	利用者の公共交通の利用実態や要望を把握	- 駅などの交通拠点や車両内での聞き取り調査 - QRコード付きチラシでWEBアンケート調査

3. ニーズの把握について

実施例④：意見交換・ワークショップ

- これまでより、地域に寄り添った運行計画を構築するには、地域住民との連携が重要となります。



アンケートで得られた傾向を基に、対応すべき移動困難者の解像度を上げることが重要

3. ニーズの把握について

実施例④：意見交換・ワークショップ

- 参加メンバーは実際に移動に困っている方が理想的ですが、実際は元気に自家用車を運転している、移動の問題を「自分事」として捉えていない地域の代表者が参加する場合も多いです。
- そのため、地域住民に加えて「地域の移動を支える取組」を実際にされている方々を集めることで、詳細な住民実態(困りごとなど)の把握が可能です。

【メンバー構成と役割例】

行政、有識者、コンサル等  • 全体の仕切り • 活動費の支援 • 意見集約 • 関係者への調査依頼(聞き取り項目の提出) • 対応策の検討	関係課、民生委員、保健師、PTA等  • 地域の意見収集 • 住民への宣伝 • 公共交通活用策の提案
交通事業者、目的施設管理者等  • 実態報告 • 利用者の意見収集	地域代表(町内会、婦人会等)  • 会場の確保(集会所) • 地域の方向性を提案 • 地域の意見収集 • 公共交通の積極的な利用 • 住民への宣伝

行政の縦割りの壁を越えた貴重な情報共有の場を設定

3. ニーズの把握について

実施例④：意見交換・ワークショップ

- 限られた財源とマンパワーの中では住民全ての要望を受け入れることは難しいため、地域の落とし所(納得感)の協議が必要です

【初回実施内容例】

①アンケート調査等の結果報告



②運行している公共交通の実態説明



③地域の困りごとの確認



貴重な意見交換の時間を「要望の発散の場」にしないため、丁寧に現状説明

3. ニーズの把握について

実施例④：意見交換・ワークショップ

①アンケート調査等の結果報告

【説明内容例】

- ・ 住民の主な移動手段
(主に自家用車、家族送迎 等)
- ・ 主に公共交通を利用している人
(高齢者、学生 等)
- ・ 公共交通に求められていること
(便数・乗降場所の増加 等)

②運行している公共交通の実態説明

【説明内容例】

- ・ 交通サービスの利用者数
(区間・便で全く利用がない 等)
- ・ 運行に係る年間経費
(住民1人あたりの経費 等)
- ・ 交通事業者の実態
(運転手不足、事業撤退 等)

地域が置かれている状況を図やグラフ等で視覚的に示す

要望を受ける前に地域に実態を把握してもらうことが重要

3. ニーズの把握について

実施例④：意見交換・ワークショップ

③地域の困りごとの確認

【確認項目例】

Q. 普段どんな目的・方法で外出していますか？

- ・毎日近所の商店に歩いて買い物に行っている。 など

Q. 外出の際、どんなことで困っていますか？

- ・親世代が足が痛くてバス停まで歩けないと言っていた。
- ・雪が降ると歩いて外出できない、運転が不安。 など

Q. 近所を公共交通が運行しているか知っていますか？

- ・近所のバス停に〇〇線が運行しているのは知っている。
- ・路線が複雑で何線がどこまで運行しているかわからない。 など

Q. 公共交通を利用していますか？

- ・孫が通学のために利用している。
- ・バスを利用して中心市街地に洋服などの買い物に出かけている。
- ・まだ自家用車を運転できるので、将来使いたいと思っている。 など

Q. 公共交通を利用する上で問題となっていることはありますか？

- ・運行時間帯が早すぎる、遅すぎる。
- ・施設の滞在時間が長く、ちょうど良い時間帯がない。
- ・通学定期が家計の負担になっている。
- ・利用したいが、利用・予約方法がわからない。
- ・目的地付近にバス停がないため使うことが出来ない。 など

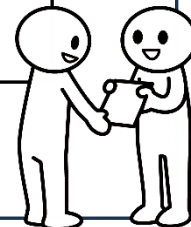
Q. 公共交通以外に移動する手段(無償移動サービス等)はありますか？

- ・友達が外出する際に一緒に車に乗せてもらっている。
- ・通院先の診療所に予約すると朝一に家まで車で迎えに来てくれる。
- ・薬局が〇曜日に無料で車を出してくれて、午前中に買い物して帰る。 など

Q. その他に移動に関して不安なことはありますか？

- ・回数券の購入場所を増やしてほしい。
- ・病院などの通院が便利になるようにしてほしい。
- ・利用料金や電子マネーが使えるのか分からなくて不安。
- ・家族の高校までの移動手段が無いと通学先の選択肢が狭くなると感じる。
- ・カートなどを押していても乗り降りしやすい車両が望ましい。 など

調査結果の内容を踏まえて、
聞き出したい内容を調整



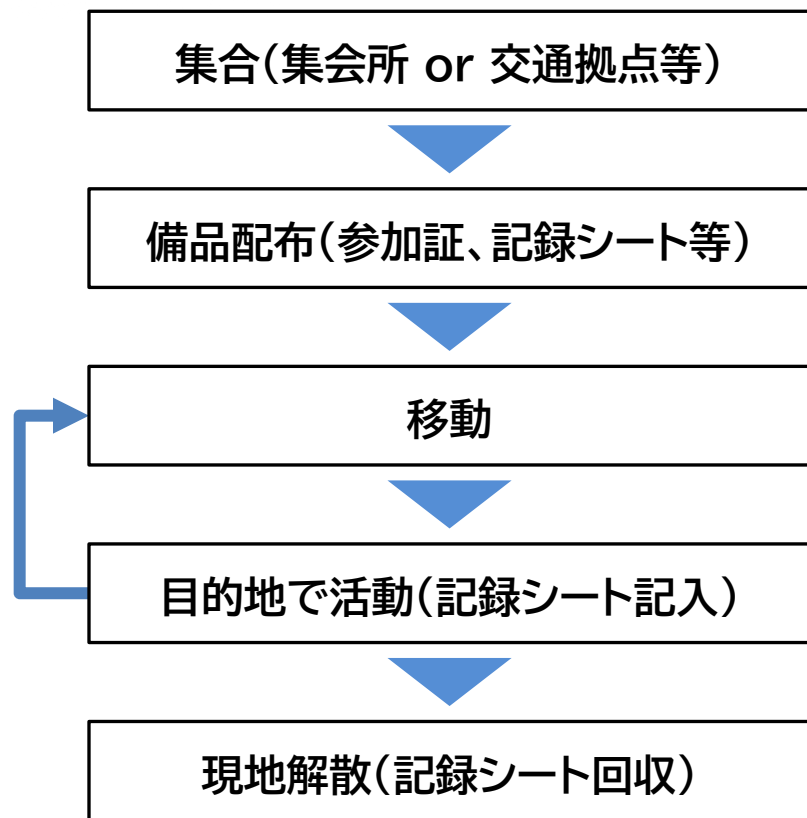
「既に把握している問題」と「地域からの直接の声」を結びつけることが重要

3. ニーズの把握について

実施例④：意見交換・ワークショップ

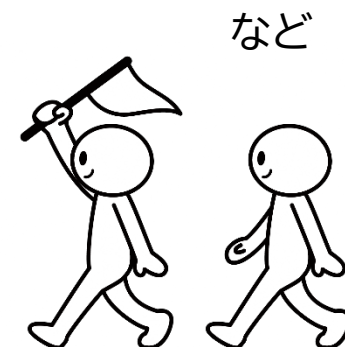
- 実際に公共交通を利用してみることも住民理解を深めるには重要です。

【実施内容例】



■実施のメリット

- 複数人で利用することで「初めて利用するハードル」を下げる事が可能
- 実際に利用することで、運行内容に対して細かい気付きが生まれる
- 使えるということがわかると、地域に対して良い「口コミ」が広がり、さらなる利用者獲得に繋がる



利用経験の有無は将来的な議論の質に大きな影響を与える

3. ニーズの把握について

実施例④：意見交換・ワークショップ

バス移動(各自最寄りのバス停から乗車)

11:35 施設A 最寄りバス停降車

↓ 徒歩移動

11:50

↓ 施設A で食事

12:50

↓ 徒歩移動

13:00

↓ 施設B で日帰り温泉

14:40

↓ 徒歩移動

・当日の流れ等説明・集金
・参加者確認
・チェックシート等一式の配布
・ネームホルダーの配布

14:50

↓ 施設C で工場見学

15:50

↓ 施設C で軽食

・チェックシート記入

16:50

↓ 徒歩移動

16:58 施設C 最寄りバス停乗車

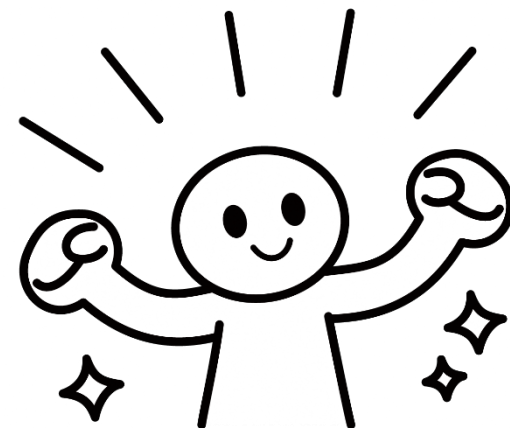
バス移動(各自最寄りのバス停から乗車)

・チェックシート等一式の回収
・ネームホルダーの回収
・忘れ物がないか確認

後日、参加者で当日のコースを評価・改良し、モデルコースとして展開することも可能

本日の話の全体像

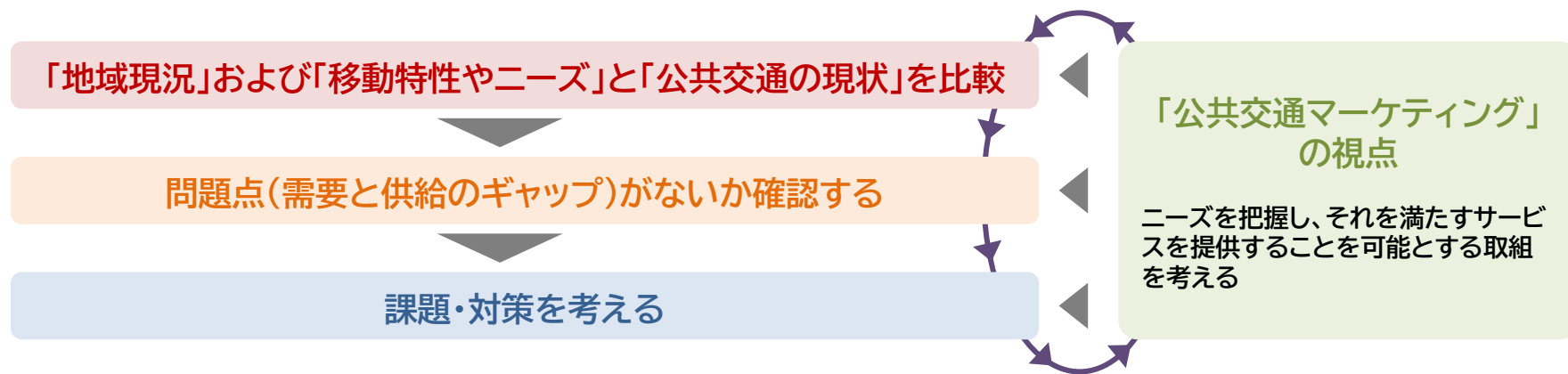
1. 入門編のおさらい
2. 利用状況の把握について
3. ニーズの把握について
4. さいごに



4. さいごに

地域に適した計画をまとめましょう

- これまで整理した「利用現況」と「ニーズ」によって、地域における問題点(需要と供給のギャップ等)を捉えましょう。
- また、意見交換会などで地域と直接やり取りした場合には「地域からの要望(粗削りの施策)」もたくさん得られると思います。
- これらを受けて自治体が見出す「あるべき姿・理想」に近づくために公共交通によって対応が必要な「課題」を設定しましょう。
- 「こういったことが必要だ(課題)」→「こういったことを目標に進める(目標)」→「こんなことに取り組む(施策)」というように、課題を裏返せば目標や施策に繋がってきます。
- このため、課題をしっかりと整理できれば、自ずと取り組むべき方向性も見えてくるということになります。



4. さいごに

地域に適した計画をまとめましょう

- 課題が見えたら「解決のための施策」を定めましょう。
- 計画策定のメリットの1つでもある「国庫補助の活用」には、いくつか条件があり「取組内容の新規性」もその条件の1つです。
- 地域に適した「サービスレベル(運賃・頻度等)」で持続可能な新しい公共交通を検討し、取組を行いましょう。
- 地方圏での採算性の高い路線の構築が難しい昨今、運賃だけで路線を維持するのは厳しい状況であり、近年では移動サービスを商品として対価を得るのではなく、移動で誘発される経済活動から収益を回収する仕組みへ転換する「沿線受益者負担※」の考え方も進んでいます。
- 今後は地域公共交通計画にて指針を示し、庁内だけでなく地域・企業・団体と様々な連携に取り組むことが重要です。

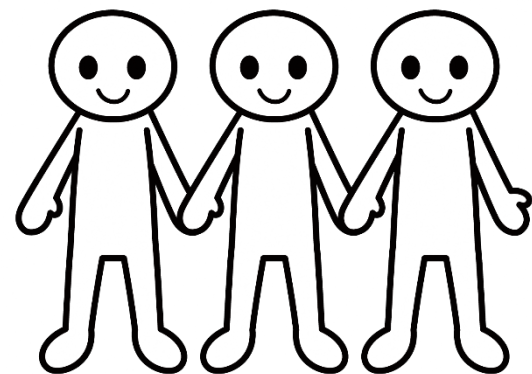
※沿線受益者負担とは、例えば地域や商業施設、不動産開発業者等が運行経費の一部を負担することで、移動サービスの維持・円滑化を図り、地域の価値の向上を目指す考え方



4. さいごに

計画を作って終わりではありません

- 入門編でもお伝えしましたが、移動サービスの状況は毎年、毎月、毎週、毎日、いろんな事で変化しています。
- 人と同じように、常に現状を見て、定期的に「健康診断」をしてあげることが、長生きの秘訣です。
- モニタリングについては、単にデータを公共交通会議で委員に共有するだけではなく、実際に皆さんで利用して感じたことを議論してみることも重要です。



(参考)国の資料集

- 国では、地域公共交通に関する情報をとりまとめています。
- これらも参考にして頂ければと思います。

国土交通省HP(地域公共交通に関するお役立ち情報)リンク

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000240.html

国土交通省

● 本文へ ● 文字サイズ変更 ● 印刷 ● 拡大 ● 音声読み上げ ● 拡大 ● English

Google 検索

検索方法 ● サイトマップ

● ホーム ● 国土交通省について ● 報道・広報 ● 政策・法令・予算 ● 白書・オープンデータ ● お問い合わせ・申請

公共交通政策

ホーム > 政策・法令 > 国土交通省 > 公共交通政策 > 地域公共交通に関するお役立ち情報

地域公共交通に関するお役立ち情報

地域公共交通に関して、地域における取組に活用等を頂くために、国土交通省本省・地方運輸局において、これまで作成してきたマニュアル・報告書などの情報をまとめました。

～地域公共交通について～

関係する法令や予算の概要

関係する法令

- 地域公共交通の活性化及び再生に関する法律
- 地域における一般乗合旅客自動車運送事業及び旅行業に係る基盤的なサービスの提供の維持を回るための私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律の特例に関する法律
- 交通政策基本法
- 都市の低炭素化の促進に関する法律

関係する予算

公共交通の概要（初心者の方へ）

最初に読みたいマニュアル

- ✓ 「はじめての地域公共交通～公共交通担当になったら読む本～」(中部運輸局 令和6年3月)【[本誌](#)】
- ✓ 「なるとい！公共交通の動とこる」(九州運輸局 令和4年3月)【[本誌](#)】【[紙媒体](#)】
- ✓ 「公共交通マップづくりの動とこる」(九州運輸局 平成31年3月)【[本誌](#)】【[紙媒体](#)】
- ✓ 「地域公共交通のはじめの一歩」(九州運輸局 平成31年3月)【[初任者用ガイドブック](#)】